

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第2立体駐車場	階数	地上5F
建設地	愛知県豊田市	構造	S造
用途地域	上原町折橋1番16,17,19	平均居住人員	0人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年9月23日
敷地面積	2,962 m ²	作成者	辺見・中川
建築面積	2,126 m ²	確認日	2017年9月25日
延床面積	10,413 m ²	確認者	辺見・中川

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性: 2.8 耐用性: 3.6 対応性: 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

生物環境: 1.0 まちなみ: 4.0 地域性: 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物外皮の: N.A. 自然エネ: N.A. 設備システ: N.A. 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源: 3.0 非再生材料の: 2.9 汚染物質: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化: N.A. 地域環境: 3.0 周辺環境: 3.8

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green; text-align: center;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green; text-align: center;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">16.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green; text-align: center;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green; text-align: center;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用建物全体・共用部・宿泊部 住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
													評価点
Q 建築物の環境品質													2.9
Q1 室内環境													-
1 音環境													-
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													-
1 開口部遮音性能													
2 界壁遮音性能													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音													-
2 温熱環境													-
2.1 室温制御													-
1 室温													
2 外皮性能													
3 ソーン別制御性													
2.2 湿度制御													-
2.3 空調方式													-
3 光・視環境													-
3.1 昼光利用													-
1 昼光率													
2 方位別開口													
3 昼光利用設備													
3.2 グレア対策													-
1 昼光制御													
3.3 照度													-
3.4 照明制御													-
4 空気環境													-
4.1 発生源対策													-
1 化学汚染物質													
4.2 換気													-
1 換気量													
2 自然換気性能													
3 取り入れ外気への配慮													
4.3 運用管理													-
1 CO ₂ の監視													
2 喫煙の制御													
Q2 サービス性能													3.2
1 機能性													-
1.1 機能性・使いやすさ													-
1 広さ・収納性													
2 高度情報通信設備対応													
3 バリアフリー計画	独自												
1.2 心理性・快適性													-
1 広さ感・景観(天井高)													
2 リフレッシュベース													
3 内装計画													
1.3 維持管理													-
1 維持管理に配慮した設計													
2 維持管理用機能の確保													
2 耐用性・信頼性													2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振													2.8
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													
2 免震・制震・制振性能													
2.2 部品・部材の耐用年数													2.8
1 躯体材料の耐用年数													
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②												
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													
6 主要設備機器の更新必要間隔													
2.4 信頼性													2.0
1 空調・換気設備													
2 給排水・衛生設備													
3 電気設備													
4 機械・配管支持方法	②												
5 通信・情報設備													

給水配管と消火配管をC種採用

耐震クラスA

3 対応性・更新性				3.6	0.48				3.6
3.1 空間のゆとり				3.0	0.31				
1 階高のゆとり				-	-				
2 空間の形状・自由さ				3.0	1.00				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				4.7	0.38				
1 空調配管の更新性		②		-	-				
2 給排水管の更新性			露出配管で施工	5.0	0.20				
3 電気配線の更新性			露出配管で施工	5.0	0.13				
4 通信配線の更新性			露出配管・配線で施工	5.0	0.13				
5 設備機器の更新性			更新時に建屋機能継続可能	5.0	0.27				
6 バックアップスペースの確保			バックアップスペースあり	4.0	0.27				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				2.6
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺施設を意識した色調とした	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-				-
2 自然エネルギー利用				-	-				-
3 設備システムの高効率化				-	-				-
4 効率的運用				3.0	1.00				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				2.9
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63				2.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00				
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				-	-				
3 冷媒				-	-				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①		-	-				-
2 地域環境への配慮				3.0	0.50				3.0
2.1 大気汚染防止			汚染発生源なし	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33				
2 汚水処理負荷抑制				-	-				
3 交通負荷抑制		独自	駐車場用途のため	5.0	0.33				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33				
3 周辺環境への配慮				3.8	0.50				3.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				4.3	0.40				
1 騒音		独自	対象となる騒音発生源なし	5.0	0.33				
2 振動		独自	対象となる振動発生源なし	5.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				-	-				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	1.00				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			屋外広告物なし	5.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

第2立体駐車場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N.A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:16.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	必要最小限の設備とすることで省エネルギー化を図った。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	自走式立体駐車場における標準的な計画としており、露出配管となっているため更新性が高い。
Q3 室外環境(敷地内)	現地の自然環境を考慮し、植栽を計画した。
LR1 エネルギー	必要最小限の設備とすることで省エネルギー化を図った。
LR2 資源・マテリアル	主要水栓に節水コマを取付けている。
LR3 敷地外環境	周辺環境と調和する外観とした。
その他	特筆事項無